

日本の外国語教育学研究が なしえたことと、なすべきこと

講演者

吉田 研作教授
(上智大学名誉教授、日本英語検定協会会長)



日時

2022年1月18日(火)
午後18時00分～19時30分

形式

オンライン【Zoom】 ※先着300名 事前申込みが必要です。

◆申込方法◆ [こちら](#)をクリックもしくは、QRコードをお読み取りの上、参加申し込みを行ってください。申込〆切は2022年1月7日(金)までです。参加費は無料です。



概要

日本の外国語教育学の研究が本格的になったのは、大学設置基準の大綱化が1990年代に実施され、それがきっかけとなり、色々な大学で外国語教育のための研究機関が設立されるようになってからではないかと思う。1950年代には、外国語は「補助科目」として扱われ、独立した地位は持っていなかった。大学設置基準が制定されたことにより、一般外国語という領域はできたが、実質的にはそのための独立した組織ができたわけではなく、また、専門性はほとんど認められていなかった。そんな中で、1962年にJACET、1963年に日本英語検定協会が設立され、中高の英語教師と大学の外国語教育の研究者が一緒になって英語教育について議論し、研究する環境が設けられた。

本講演では、このような日本の外国語教育研究の流れを踏まえ、現在のSLAやコミュニカティブ・アプローチの研究へとどう発展してきたかについて振り返る。その上で今後の外国語教育の課題について考える。

略歴

上智大学名誉教授、日本英語検定協会会長、国土交通省航空英語能力証明審査会会長。元上智大学言語教育研究センター長、上智大学国際言語情報研究所所長、外国語学部長、その他、「中教審外国語ワーキンググループ」主査、大学入試センター英語四技能実施企画部会部長、英語の資格・検定試験とCEFRとの対応関係に関する作業部会主査、英語力評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験の活用促進に関する連絡協議会委員、中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会小学校部会委員、英語教育の在り方に関する有識者会議座長、外国語能力向上に関する検討会座長、CAN DOリストによる学習到達度設定に関する検討会議座長、中教審教育課程企画特別部会委員、中教審高大接続システム改革会議委員、東京都英語教育戦略会議座長、NPO小学校英語指導者認定協議会会長、Asia TEFL理事、The International Research Foundation for English Language Education 理事、などを歴任。交通文化賞受賞(国土交通大臣賞)、Best of JALT 受賞など。